

シニアネットワーク東北

平成26年度活動報告書

平成27年6月4日

## 平成 26 年度活動報告書について

シニアネットワーク 東北

代表幹事 菊地新喜

「平成 26 年度の学生との対話活動」は、東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故以来 3 年を経過してなお、脱原発、卒原発の声がある中、シニアネットワーク 東北は「原子力発電の啓蒙、普及を図る」と言う本来の目的に沿って計画通り、長岡科学技術大学（6 月）、青森大学（10 月）、山形大学（11 月）、東北大学（平成 27 年 1 月）、仙台高等工業専門学校（1 月）、八戸工業大学（1 月）の 6 校で実施することができた。

また、前年度まで行ってきた宮城学院女子大学と東北学院大学については、大学側の窓口となってくれていた先生の異動などのため実施できなかったが、次年度には再開したいと考えている。

対話集会は[地球環境とエネルギー問題]、[放射線と放射能]などのテーマで基調講演を行った後、学生 4～8 名のグループにシニア 2 名が加わり基調講演のテーマに基づき 1～2 時間の対話を行うパターンが定着してきた。しかし、東北大学のように学生側の希望で基調講演なしに対話だけを目的としたやり方も試行され、より実のある対話活動が模索されている。

対話の内容は「原子力発電は必要か」と「放射能・放射線に対する安全基準はどうなっているのか」ということが中心になっていたが、対話の中でマスコミの脱原発の論調に対して原子力発電は必要であるとの認識は持ってくれたようだ。この点に関してはここ数年変わっていない。

また、今年度は東日本興業（株）の女性社員をはじめ、東北電力（株）の塩釜営業所、石巻営業所、白石営業所および青森営業所において、主に女性社員を対象に「放射線と放射能」に関する勉強会を実施し、我々シニアとの対話を行い風評被害を避けるため放射線に関する正しい知識の普及に努めた。

## シニアネットワーク東北 平成26年度活動報告

### 1. 第6回定期総会

日時 平成26年6月13日（金） 15:00～15:50

場所 東北エネルギー懇談会会議室

- ・平成25年度の活動報告、会計報告が承認され、平成26年度活動計画案、収支予算案も原案通り承認された。
- ・代表幹事および幹事ならびに監事について原案どおり承認された。  
また業務量の幹事長への過度の集中の反省から、菊地代表幹事は4名の副代表幹事を指名し了承された。

記念講演（第16回勉強会参照）

### 2. 対話活動

#### （1）東北電力原子力部門新入社員との対話

日時 平成26年5月29日（木） 10:00～17:00

場所 東北電力本店 1A会議室

参加者 SNW東北：4名、SNW連絡会：3名、新入社員：16名と対話。

基調講演 SNW東北幹事 元東北電力常務取締役 阿部 壽氏

前年度とほぼ同じ内容だが、1990年に土木学会で発表された研究論文「仙台平野における貞観11年三陸津波の痕跡高の推定」についてお話しされた。この話は女川原子力発電所が阿部氏のような先輩たちの関心と努力により、3年前の大津波にも耐えることが出来たのだということを強く印象づけてくれた。

#### （2）長岡技術科学大学 SNW連絡会と共催（4回目）

日時 平成26年6月25日（水） 13:00～16:10

場所 長岡技術科学大学 講義棟1F 103室

参加者 長岡技術科学大学 大塚雄市特任講師

長岡技術科学大学学生 58名（ベトナムからの留学生3名）

SNW東北：3名 SNW連絡会：6名

基調講演 「原子力問題を考える」（講師：SNW連絡会 林 勉氏）

平成26年6月25日に長岡技術科学大学にて今年で4回目となる対話会が開催され学生58名、シニア9名が参加した。今年は、原子力

複合災害時の避難行動に着目したリスクアセスメントとリスクコミュニケーションを対話会共通テーマに設定し、リスク評価の不確実性と住民～行政/事業者間のコミュニケーションの阻害要因について学ぶことを目的に対話を行った。大塚先生の事前の意識付けと日常の指導が浸透し、学生たちは自学自習で情報を獲得して入念に準備してきており、「避難計画と不確定要素」という特化されたテーマであったものの双方向の対話が円滑に進み充実した質の高い対話会となった。学生たちは事前に対話会での役割分担を決めており発表も事前によく吟味され要点をしっかりと捉えたものであった。尚、参加シニアには初めての試みとして「自己採点評価」を実施してもらい、今後のシニアネットワークの活動改善に資することとした。

(3) 青森大学 (5 回目)

日時 平成 26 年 10 月 29 日 (水) 14:45～17:30

場所 青森大学 633 教室

参加者 学生：ソフトウェア情報学部、経営学部、薬学部 3～5 年生 16 名

教授：ソフトウェア情報学部 矢萩正人教授他

S NW東北 7 名

基調講演 1 菊地新喜代表幹事 「地球環境とエネルギー問題」

基調講演 2 工藤昭雄副代表幹事 「放射線と放射能について」

S NW東北の青森大学における対話集会は 5 回目である。

最初に教室で「地球環境とエネルギー問題」、「放射線と放射能」について、各 30 分の基調講演が行われた。その後、各学生 7～11 名と S NW東北 2 名との 3 グループに分かれて約 1 時間グループ対話を行った。対話の後、再び教室に集まり、各グループ代表者から対話内容の説明があった。その間、講演、グループ対話についてのアンケートも実施した。最後に、S NW東北からグループ対話の講評を行い、日程を終了した。

(4) 山形大学 S NW連絡会と共催 (4 回目)

日時 平成 26 年 11 月 10 日 (月) 14:30～17:50

場所 山形大学工学部 (米沢市城南 4-3-16)

100 周年記念館セミナー室

参加者 大学側 電気電子工学分野 東山禎夫教授、南谷准教授、杉本准教授、  
八塚准教授

学生 電気電子工学科30名

シニア SNW東北:7名、SNW連絡会:6名

#### 基調講演

講師 川合将義 高エネルギー加速器研究機構名誉教授

演題 「福島復興に向けた動きと課題」

上記のテーマの元、東電福島第一原発事故の進展と影響、福島第一原発汚染水対策の状況及び廃炉並びに廃棄物処理計画も含め、地域の除染状況（含む中間貯蔵施設の状況）更に福島復興の動きについて多岐にわたる状況の概要説明が行われた。

基調講演の後6班に分かれ、各班5名の学生とシニア2人が学生から出された質問を話題に対話した。

今回の対話はSNW東北の高橋弘道氏が大学側と交渉して実現したもので、東山教授からこのような技術者OBとの対話の機会が持てたことに對し感謝の言葉があり、来年度も続けていきたいと話された。

#### （５）東北大学工学部 SNW連絡会との共催（9回目）

日時 平成27年1月16日（水） 13:00～18:00

場所 東北大学青葉山キャンパス 量子エネルギー工学本館

参加者 量子エネルギー工学専攻学生 31名

教官 4名

シニア SNW東北:5名、SNW連絡会:5名

オブザーバ 日本原子力産業協会（JAIF） 2名

総括講演 （講師：SNW連絡会 石井代表幹事）

演題 「ポスト福島におけるエネルギー・原子力・環境の再構築」

今回で9回目となる東北大学での対話会の今回の最大の特徴は、大学側の要望で対話時間を最大限確保することで計画したこと。通常実施している基調講演や対話後の学生発表を割愛しその代わりに対話後に総括的な講話をすること、並びに対話は2回実施し学生のグループ分けと設定テーマを組み替えてより多くのシニアと多様な対話を試みた点である。

シニアのペアリングと担当テーマは固定とした。これにより、学生たちの対話満足度は従来以上であり、シニアにとっても達成感に満ちた対話会となったが、各グループでの対話の全体像がつかめないなどの課題も浮上した。

尚、今回は学生による発表の代わりに感想分を提出してもらった。

(6) 仙台高等専門学校 (5 回目)

日時 平成 27 年 1 月 30 日 (金) 13:15~17:00

場所 仙台高等専門学校名取キャンパス 専攻科棟 4F 教室他

参加者 仙台高専 吉野教授 専攻科学生:12 名、SNW東北:4 名

基調講演 1 菊地新喜代表幹事 「地球環境とエネルギー問題」

基調講演 2 矢野歳和副代表幹事 「放射線と放射能」

各 30 分間の基調講演 2 件の後、「はかるくん (CP-100)」を使用しキャンパス内の任意の場所で計測実習が行われ、計測地点により線量率が異なることを実感できた。

その後「放射線と放射能」と「環境とエネルギー」の 2 つのグループに分かれて 60 分間の対話をし、グループ発表を計 10 分間で行った。学生の反応は、原子力とのベストミックスより再生可能エネルギーに興味がある一方、その限界も感じており、ロシアとウクライナのガス取引がニュースとなっていたことからエネルギーセキュリティや外交問題、原子力や放射線に対するマスコミの動きに疑問を持つ学生もいた。最後に講評では早坂監事が学生の多様な考え方をまとめ、多くの情報を得て適正な判断が出来るように勧めた。

(7) 八戸工業大学 SNW連絡会との共催 (10 回目)

日時 平成 27 年 2 月 2 日 (月) 10:00~17:30 (午前中は学生のみ)

場所 八戸工業大学 メディアセンター

参加者 八戸工大学生 35 名

教職員 5 名、SNW東北 4 名、SNW連絡会 5 名

基調講演 坪谷 隆夫 SNW連絡会副会長

演題 「一緒に学ぶエネルギーと原子力について」

対話に先立ち、昼食に学生とせんべい汁を食しながら互いが打ち解け、

その流れをグループ対話に繋ぐことで本音ベースの活発で深みのある対話が実現。基調講演はS N W連絡会副会長坪谷氏から、これからの原子力の安全と安心の課題の基本にかかわる最新状況を踏まえた簡潔な要点説明があった。学生の発表内容では、一連のカリキュラムでエネルギー問題に対する論点整理が出来上がっており、それを下敷きにしてポイントを外さない立派なもので質疑応答でも堂々と意見を述べる学生の姿は印象的で頼もしいものであった。シニアにとっても、世代を超えた対話は多様な内容で学生のこれからの将来の可能性を感じるもので、達成感に満ちたものであった。八戸工業大学の先生方のエネルギー問題に対する熱い視線と長年のご尽力に敬意を表したい。来年も2月頃に対話会を計画するとのこと。

#### (8) 風評被害予防キャンペーン活動

原子力の再稼働に係る風評被害予防（情報提供）を目指して平成26年度は東日本興業（株）、東北電力（株）の塩釜営業所、石巻営業所、白石営業所および青森営業所において、主に女性を対象に講演と対話を行った。

##### ・ 東日本興業（株）

日時 平成26年9月17日（水）

場所 電力ビル8階 東日本興業会議室

参加者 17名（うち女性社員13名）、S N W東北（菅原、工藤、山田、矢野）

基調講演 S N W東北 山田信行副代表幹事

##### ・ 東北電力（株）塩釜営業所

日時 平成26年11月26日（水）

場所 塩釜営業所会議室

参加者 31名（所員15名、電友会（OB）14名、本店2名）

S N W東北（菅原、清野、工藤、涌沢、三塚、山田、矢野）

基調講演 S N W東北 矢野歳和副代表幹事

##### ・ 東北電力（株）石巻営業所

日時 平成26年12月16日（火）

場所 石巻営業所会議室

参加者 所員24名、関係企業3名、電友会（OB）9名、本店2名など約40名  
S N W東北（菊地、菅原、高橋（弘）、涌沢、岸、山田）  
基調講演 S N W東北 山田信行副代表幹事

・東北電力（株）白石営業所

日時 平成27年1月30日（金）  
場所 白石営業所会議室  
参加者 43名（検針員30名、所員5名、電友会（OB）5名、支店1名、本店2名）  
S N W東北（菅原、高島、栗野、宮本、岸、工藤）  
基調講演 S N W東北 工藤昭雄副代表幹事

・東北電力（株）青森営業所

日時 平成27年3月5日（水）  
場所 青森営業所会議室  
参加者 ライトサークル（OG会）50名、本店2名、支店1名、営業所数名  
など約60名  
S N W東北（菅原、栗野、工藤、山田、矢野）  
基調講演 S N W東北 矢野歳和副代表幹事

・東北電力（株）本店

平成27年3月17日、S N W東北の働きかけに応じた本店電友会および  
広報部は、本店電友会主催の講演会（岡信常務の講演）参加者約200名に、  
電気事業連合会資料「放射線Q&A」とS N W東北勉強会資料「風評被害を  
防ぎ、放射線から子どもを守るために」を配布した。

### 3. 会員勉強会

総会や拡大幹事会に合わせ、会員を対象に勉強会を3回実施した。

（1）第16回会員勉強会（第6回定期総会での記念講演）

日時 平成26年6月13日（火）16:00～17:30  
場所 東北エネルギー懇談会会議室  
参加者 26名

講師 東京電力ソーシャルコミュニケーション室  
兼立地地域部リスクコミュニケーター 皆川喜満 様

演題 「福島原発処理の現状と課題」

東日本大地震と津波により発生した福島第一原発の事故の影響は大きく、現在も大量の汚染水の発生が続いておりその対策に懸命の努力が注がれている。今回は東京電力の第一線の責任者である皆川様に現状と今後の予定について貴重な情報を提供して頂いた。

## (2) 第17回会員勉強会

日時 平成27年1月19日(月) 16:10～17:15

場所 東北エネルギー懇談会会議室

参加者 講師を含め13名

講師 SNW東北会員 栗野 量一郎幹事

演題 「雷のはなし」

古来、自然界のエネルギーを象徴する存在である雷様について、科学的な面や文化的な面を交えて大変興味ある話が聴け、大変有意義な会員勉強会となった。

## (3) 第18回会員勉強会

日時 平成27年2月23日(月)

場所 東北エネルギー懇談会会議室

参加者 講師を含め14名

講師 高島 敬二幹事

演題 「燃料関係最近のトピックス」

## 4. 幹事会・拡大幹事会 原則毎月第4月曜日 (必要に応じて臨時)

- (1) 第51回 平成26年4月28日
- (2) 第52回 平成26年6月3日
- (3) 第53回 平成26年7月14日
- (4) 第54回 平成26年9月24日
- (5) 第55回 平成26年10月27日
- (6) 第56回 平成26年11月25日

- (7) 第 57 回 平成 26 年 12 月 22 日
- (8) 第 58 回 平成 27 年 1 月 19 日
- (9) 第 59 回 平成 27 年 2 月 23 日
- (10) 第 60 回 平成 27 年 3 月 23 日

5. 「SNW連絡会運営小委員会」および「エネルギー問題に発言する会運営委員会」参加  
原則毎月第3木曜日（8月は休会）

（場所）原子力安全推進協会（JANSI）会議室  
情報収集およびSNW連絡会との共催対話活動の円滑化等のため参加し、拡大幹事会で報告，必要に応じて会員にもメール等で紹介した。

6. 平成 26 年度参加シンポジウム、講師派遣、見学会

(1) 参加シンポジウムなど

・ OECD 加盟 50 周年記念・OECD/NEA 会議

International Conference on Global Nuclear Safety Enhancement

主催 OECD/NEA

日時： 平成 26 年 4 月 8 日（火）

場所： 東京プレスセンター（千代田区内幸町 2-2-1）

参加者 山田副代表幹事

・ 中西準子先生講演「食のリスクを考える」

主催 NPO 食のコミュニケーション円卓会議

日時 平成 26 年 6 月 20 日（金）

場所 東京都産業労働局秋葉原庁舎 3F

参加者 矢野副代表幹事

・ 第15回SNWシンポジウム 責任ある原子力総合政策を！

～第4次エネルギー基本計画の具体化に向けて～

主催：（社）日本原子力学会シニアネットワーク連絡会

日時： 平成 26 年 8 月 2 日（土）13：00～17：30

場所： 東京大学武田先端知ビル 5 階ホール

出席者： 約150名 SNW東北から 岸 工藤 山田 矢野

- ・日本原子力学会シンポジウム 女性のためのフォーラム  
「低線量被ばくと健康影響について」

主催 日本原子力学会  
日時 平成 26 年 8 月 30 日（土）  
場所 コラッセ福島  
参加者 山田副代表幹事、矢野副代表幹事

- ・原子力学会秋の大会

日時 平成 26 年 9 月 8 日（月）～10 日（水）  
場所 京都大学吉田キャンパス  
参加者 矢野副代表幹事

- ・「六ヶ所村からの発信～原子力と私たちの歩み～」 仙台シンポジウム

主催 六ヶ所村文化協会読書愛好会  
日時 平成 26 年 10 月 5 日（日）  
場所 エル・ソーラ仙台 アエル 2 8 F 大研修室  
参加者 山田副代表幹事、菅原幹事

- ・今やる放射線教育

主催 NPO 法人放射線教育フォーラム  
日時 平成 26 年 11 月 16 日（日）  
場所 東京慈恵会医科大学 高木 2 号館南講堂）  
参加者 山田副代表幹事

- ・東北大学流体科学研究所公開講座 「今、エネルギーを考える」

主催 東北大学流体科学研究所  
日時 平成 26 年 12 月 13（土） 13:00～16:10  
場所 東北大学片平キャンパス「サクラホール」  
講師 常葉大学教授 山本隆三氏 「エネルギー・経済政策を考える」  
東北大学教授 橋爪秀利氏 「新規制基準を考える」  
参加者 SNW 東北から 10 名参加 3 名は受付も担当し協力

- ・第 39 回放射線防護研究会 「放射線教育の現状と今後のあり方」

主催 NPO 放射線フォーラム  
日時 平成 26 年 12 月 13 日（土）

場所 東京都 御茶ノ水ビル

参加者 早坂明夫監事

・原子力学会シンポジウムー農作物と放射性物質・放射線と健康影響」

主催 日本原子力学会

日時 平成 27 年 1 月 31 日（土）

場所 いわき産業創造館 企画展示ホール（いわき市）

参加者 山田副代表幹事、矢野副代表幹事

(2) 講師派遣

・日本原燃主催「原燃 E C O スクール」への講師派遣

- |   |              |     |         |
|---|--------------|-----|---------|
| ① | 5 月 12 日（月）  | 八戸市 | 工藤副代表幹事 |
| ② | 5 月 13 日（火）  | 青森市 | 山田副代表幹事 |
| ③ | 5 月 19 日（月）  | 弘前市 | 清野幹事    |
| ④ | 5 月 20 日（火）  | 青森市 | 矢野副代表幹事 |
| ⑤ | 12 月 15 日（月） | 弘前市 | 山田副代表幹事 |
| ⑥ | 12 月 16 日（火） | 八戸市 | 矢野副代表幹事 |
| ⑦ | 12 月 17 日（水） | 青森市 | 工藤副代表幹事 |
| ⑧ | 12 月 18 日（木） | 青森市 | 工藤副代表幹事 |

(3) 見学会について

・東京電力（株）柏崎刈羽原子力発電所見学

日時 平成 26 年 6 月 26 日（木）

参加者 馬場幹事、矢野副代表幹事

6 月 25 日の長岡技術科学大学における対話の翌日に、再稼働に取り組み対策中の柏崎原発の現状を見学した。

・日本原子力発電（株）敦賀発電所見学

日時 平成 26 年 9 月 11 日（木）

参加者 矢野副代表幹事

京都大学での日本原子力学会秋の大会プログラムに組まれた敦賀発電所見学会に参加した。再稼働の準備を進めている最中だが、サイト内の活断層の有無で原子力規制委員会と意見が対立している同サイトの状況について見学し、詳しい説明を聞いた。

・火力発電所見学

日時 平成 26 年 12 月 1 日（火）

場所 東北電力（株）新仙台火力発電所、仙台火力発電所

参加者 会員 15 名

SNW東北として会員のエネルギー産業に関する知識向上を目的に企画したもので、建設中の最新鋭コンバインドサイクルである新仙台火力第 3 号系列や東日本大震災の津波被害から復旧した仙台火力 4 号機を見学した。また仙台火力発電所の構内に建設され平成 24 年 5 月に運転開始した「仙台太陽光発電所」も見学した。

7. SNW東北のホームページの維持・管理・更新

会の運営に当たっては、電子メールによる情報交換をベースとすることで発足したが、これを補完するものとして、また一般の方への情報発信の手段としてホームページを作成して運用している。会員に対しては「会員のページ」も設け、会の活動状況の詳細を把握できるようにしている。内容は必要に応じ随時更新している。

（ホームページ：<http://www.snwtohoku.jp>）

(参考) 平成 26 年度の「学生と対話活動」へのシニア参加者

| 実施月日     | 実施大学      | 学生数  | SNW 東北と SNW(東京)の参加者                                | 備考        |
|----------|-----------|------|----------------------------------------------------|-----------|
| 6/25(水)  | *長岡技術科学大学 | 58 名 | SNW 東北 3 名(馬場、工藤、矢野)<br>SNW(東京) 6 名                | 4 回目      |
| 10/29(水) | 青森大学      | 16 名 | SNW 東北 7 名(菊地、清野、工藤、<br>宮本、菅原、岡本、岸)                | 5 回目      |
| 11/10(月) | *山形大学     | 30 名 | SNW 東北 6 名(菊地、菅原、高橋<br>(弘)、工藤、山田、岸)<br>SNW(東京) 6 名 | 5 回目      |
| 1/16(水)  | *東北大学     | 31 名 | SNW 東北 5 名(工藤、山田、矢野、<br>栗野、岸)<br>SNW(東京)5 名        | 9 回目      |
| 1/30(金)  | 仙台高専      | 12 名 | SNW 東北 4 名(菊地、早坂、水原、<br>矢野)                        | 5 回目      |
| 2/2(月)   | *八戸工業大学   | 35 名 | SNW 東北 4 名(菊地、工藤、栗野、<br>岸)<br>SNW(東京)5 名           | 10 回<br>目 |

(注) \*印は東京のシニアネットワークと共催

参加学生 182 名      S N W東北会員延べ 32 名

なお、日本原子力学会の S N W連絡会による平成 26 年度の対話活動は、長岡技術科学大、愛知教育大、北九州高専、九州工大、鹿児島大、九州大学、福井大・福井工大、関東複数大学、東北大、広島商船高専、八戸工大、長崎大、山形大、京都女子大と 14 回実施されたが、S N W東北としてはこのうち長岡技術科学大、山形大、東北大、八戸工大での対話に参加している。

この4校での参加シニア総数43名のうち、地元シニア(= S N W東北)の貢献は19名であり、地元貢献度は44%であった。なお、S N W東北と同様に S N W九州、および関西地区在住 S N W会員が地元学校の学生との対話に取り組んでおり、その貢献は大きい。

以上